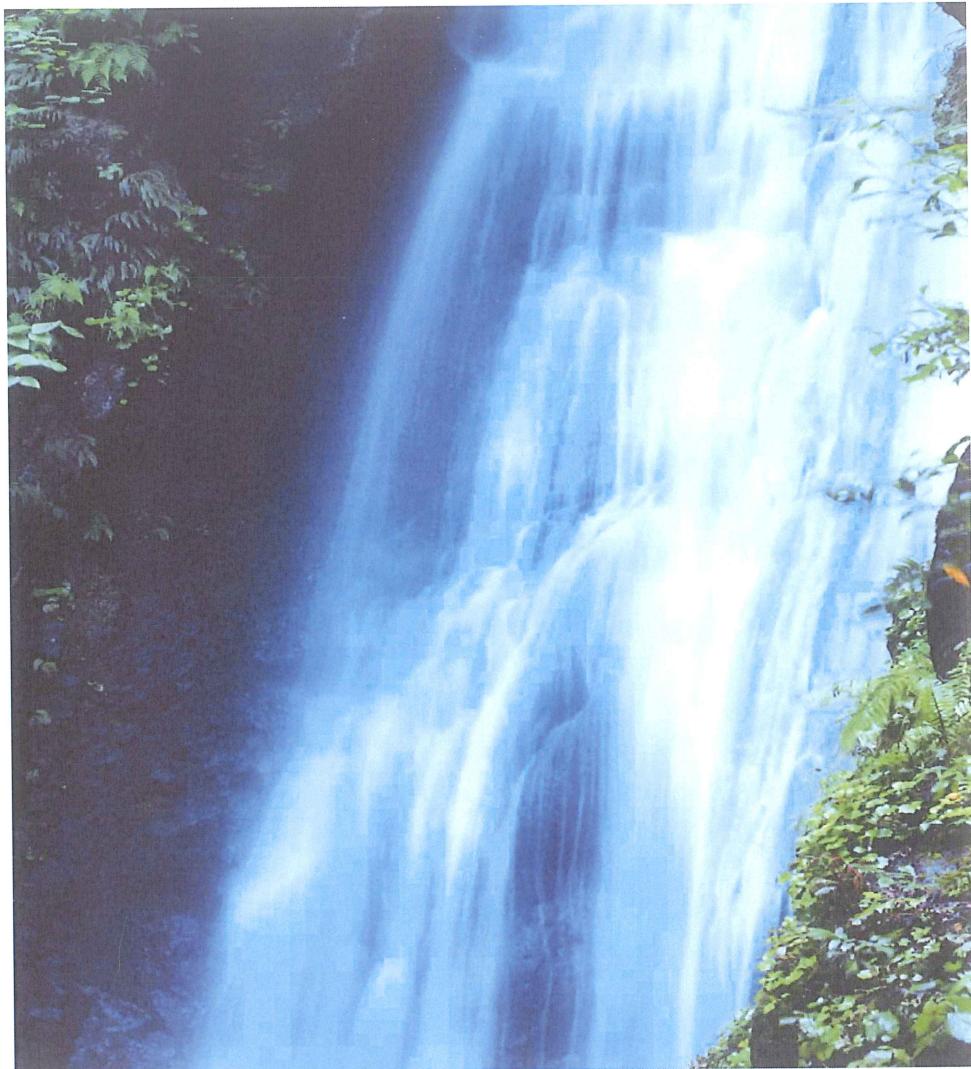


# 水清きふるさと

平成30年度活動のまとめ(2018年度)



安代 不動の滝

岩手県生活問題研究会  
一般財団法人ハピネス共済会



## 活動の終了にあたって

ハピネス共済会のご支援により、40余年の長期にわたり研究活動を継続してきましたが、この度その活動を終了することになりました。

私たちは、身近な生活の中の問題について、「手足を使い、眼で見、考える」ことを身につけることが大切であると認識することになりました。

戦後、社会は大量生産に転じそれに伴い大量消費へとライフスタイルの変化があったことは当然の理と言えます。

いのちの源である水が汚染している「琵琶湖」の汚染が問題になったことに伴い、岩手の河川について調査をはじめたのもこの事を証明したいことがねらいです。水質汚染の元凶は一番に家庭雑排水であることは現在も同じです。

ゴミの問題は日常にかかわる問題です。通常焼却することを考えますが紙等ではなく燃やすことによって有害物質が発生という現実がありました。実際に炎の色・臭いが人体に影響を及ぼすことがわかりました。自治体それぞれの焼却場では改善を進めています。

くらしの中の問題について自分で研究調査をすすめることができたわけではありません。常に社会的変化に眼を向け、いのちを守る立場を忘れず、社会に発信していくという姿勢を貫いたことであると考えています。

40余年の活動とはいえ、まだまだ啓発活動は不十分であると考えます。今もいのちに関わる問題が発生していることは人々の耳目に現実のものとなって迫っています。(海水に押し寄せるプラスチックなど)

当研究会の長年の活動を終了するにあたり、改めて生態系を破壊することがないよう、次世代にいのちを継続できるよう努力を惜しまずに暮らすことを大切にします。

この間当研究会をご支援いただきました関係者の方々に心より感謝申し上げます。

2019年3月吉日

岩手県生活問題研究会 会長 佐藤 まゆみ  
会員 一同

## マイクロプラスチック学習会

日時 2018年7月18日（水） 10：00～12：00

場所 高校会館 会議室

講師 粒針 文子さん（岩手県環境アドバイザー）

### 初めに

- ・マイクロプラスチックは5mm以下のプラスチック。マイクロビーズと呼ばれる極小サイズの物もある。
- ・天然塩にもマイクロプラスチック（MP）が混じっている。合成の食卓塩の方が安全と言えるかもしれない。
- ・プラスチックは化学物質と結びつきやすい。
- ・化学物質を全部避けることはできないので、微量の化学物質と上手に付き合っていくことを考えて暮らすことが大事。人の健康を考えない環境問題はない。

### 人の健康と環境との関係

- ・医学は病を治すが、予防に勝る薬なしとも言う。
- 環境は病にならないための社会づくりと考えると、おのずと優先順位が決まる。予防医学と同じように環境問題にも予防原則を。
- ・行政は事が起きてから動くもの、予防をしてくれない。行政を動かすには市民の側から声を上げる必要がある。

### 今、世界で起きていること

- ・海鳥が減少している。
- ・海を漂うゴミの多くがプラ。海岸に打ち上げられるゴミの85%がプラスチック。
- ・毎年500～1300万tのプラゴミが世界の海に流れ込んでいるが、海はプラスチックを処理できない。
- ・2016年11月の『ナショナルジオグラフィック誌』によると、MPは10年ごとにほぼ倍増。2014年の総量は2億5千万tで多くが米粒大で浮いている。カメ・クジラなど200以上の動物が摂取、海鳥はほぼすべてが摂取している。
- ・東京農工大学の高田秀重教授によると、羅臼ビジターセンターのハシボソミズナキドリ12羽すべてから、東京湾のカタクチイワシ64匹中49匹からMP。
- ・7月14日の共同通信の記事によると、深海魚（深さ300～600m）の70%でプラ粒子を検出。これらの魚はマグロやイルカのエサ。海上に浮いているMPも食物連鎖によって深海魚まで達している。地球全体の生き物の中で食物連鎖の頂点は人間。

### 食物連鎖は食事の話ではない

- ・捕食した生き物が有害な化学物質に汚染されいたら「生物濃縮（生物の体内濃縮）」によって一番高い濃度の化学物質を人間が食べていることになる。
- DDT→水→プランクトン→魚→鳥。。。の過程ごとに濃縮され卵ができなくなる。
- ・生物濃縮の悪い例はカネミ油症事件（1968）。。。PCBの再加熱により PCB の数百倍の毒性を持つ物質が発生した。PCB はもう作られていないが、みんなの体内に入つて残っている。アラスカのアザラシからも検出される。
- ・ダイオキシン類は、火を使った煮炊きでも発生する。
- 体内に長期間留まり腸と肝臓の間を行き来し、体内に蓄積、濃縮する。半年で排出するとは言え、排気ガスを吸っていては意味が無い。換気をして吸い込まないことが大事である。
- ・化学物質の登録数は一億種類をすでに超えているので健康被害との関係を調べようがないが、たとえ低濃度で微量でも大丈夫ではない。発達障害や認知症との関係も疑われている。

### プラスチックは化学物質とくっつきやすい

- ・PCB は脂溶性でプラと馴染みやすい。
- ・プラスチック製品を作るときに添加される物。。。軟化防止剤、紫外線吸収剤、難燃剤など様々な化学物質。

### プラスチック無しの生活はできない

- ・どっちがマシか、よりベターかを考えるしかない。
- ・中国がプラゴミを拒否するようになり、日本も影響を受けている。日本人一人当たりのレジ袋の使用は年間約 300 枚だが、国もレジ袋削減に力を入れ始めている。

### 《感想》

- ・粒針さんは環境健康学にも詳しく、化学物質の有害性について強調していましたが、粒針さんご本人も言っていたように化学物質と健康被害との関係を科学的に実証することは難しいのです。化学物質を敵視しそぎかなどの印象が残りました。それでも何となく化学物質は怖いので出来るだけ自然由来の物を使いたいとは思います。
- ・たかだか 100 年くらいの歴史のプラスチックという人間が作った物で、海や動物に被害を与えることは恐ろしいことで、必ず人間に返ってくることです。生活を見直し、周りの人にも MP のことを知らせたいと思います。

報告 横藤崇子

## 岩手県消費者大会 全体会

「貧困が日本社会を壊す！～若者に希望のもてる未来を～」

日時 2018年10月26日(金) 10:30~12:20

場所 サンビル7階ホール

講師 中京大学国際教養学部教授 大内 裕和 さん

### 奨学金をとりまく環境の変化

世間の奨学金問題への関心の高さを示しながら、奨学金制度の現在と歴史をわかりやすく説明。奨学金制度を取り巻く環境の劇的変化によってとてもない世代間ギャップがある。学習意欲のある学生が奨学金を借り職に就いて恩返しの働きをすれば免除されることもあった、無利子奨学金がメインだった時代から、有利子で簡単に奨学金を利用できるが返済が困難になるという状況が生じている現代への変遷を説明。

高卒就職の困難さから大学進学率が増えているが国立大学授業料は値上がりし続け30年前の倍にもなっている。それに対し世帯年収は下がり続け。結果家庭での負担増になり奨学金受給者の割合が増加している。仕送りも少ないためバイト漬け生活でブラックバイトの犠牲になっている学生も増えている。

### 奨学金制度改善へ向けて

様々な問題が浮き彫りになってきて制度改善へ向けての運動が行われるようになってきた。無利子奨学金の増加や奨学金充当順位の変更で利子からではなく元本が減っていくシステムへの転換、本人年収による猶予、減額、免除制度の導入、延滞金制度の廃止、将来的には給付型のみの奨学金制度へ等問題点からみた改善点はたくさんあるがまだまだ実現できていない。

今できる具体的な取り組みとして奨学金利用に関しての的確なアドバイス、SNSを活かした情報の伝達、学校・地域単位での学習会・講演会、大学単位・地域単位でのネットワークを構築。すべての人が学べる社会へ奨学金制度の改善と授業料の引き下げが重要。若者に希望のもてる未来を、経済力による教育格差を是正するのが奨学金の本来の役割である。

### 感想

我が家でもこの春、大学に進学した子供がいたためとても関心のある講演でした。給付型でない限り借金なので利用はしませんでしたが、少子化の今、貴重なこれからの中の子供・若者たちが安心して学ぶことの出来る機会を与えられる世の中、奨学金制度になっていくことを願うばかりです。

報告 川村 正子

## 岩手県消費者大会・第3分科会

日時：2018年10月26日（金）

場所：サンビル7階・3号会議室

マイクロプラスチック問題を知っていますか？

講師：岩手県環境アドバイザー 粒針 文子さん

毎日便利に使われているプラスチックが、心無い人々によって不当に廃棄されマイクロプラスチックとなって世界中の海が汚染されています。海に囲まれた日本周辺にも大量のプラスチックが流れ着き、日本もプラスチックの大量生産・大量消費国です。だれもが避けて通れない国際的な環境問題となっています。

マイクロプラスチックの原因は劣化したプラスチック製品です。しかし私たちの周りを見回すと生活用品全般、衣類包、包装用品、建材などいろいろなところに使われ、プラスチック用品のない生活が考えられないほどです。レジ袋は年間1人300枚も使われているそうです。マイバッグ使用も少しずつ普及してきましたので、一人一人の意識の問題になってくると思います。暖かく軽いフリースの衣類も一般化してきましたが、洗濯をするたびにマイクロプラスチックが排水に混じるという調査結果も報告されています。

マイクロプラスチックは海洋汚染、生態系への影響に様々な影響を与えていていると言われています。土中や海中で長く存在し分解しにくい、自然界に散らばった状態では回収が不可能です。さらに有害化学物質を吸着しやすいので、有害化学物質の運び屋になります。人は地球の食物連鎖の頂点にありますので、他の生き物の体内汚染は人の健康被害に直結するということになるそうです。

わたしたちが出来ることは何でしょう！！

最近やっとレジ袋廃止する、ストローをやめるなどの取り組みが始まっています。小さなことですが、みんなが取り組めば大きな波になります。ここまで生活に浸透してきていますので、使わないということは大変困難ですが、本当に必要なのか考えてから買う、安いからといって簡単に廃棄しないで何度も使う、捨てるときは正しく捨てる。その辺に捨てられたプラが、劣化してマイクロプラスチックとなってやがて私たちの食糧となって体内に入ってくるかもしれません。

田上 みね子



2019年岩手県消費者大会環境分科会

## 平成 30 年度岩手県電機商業組合との消費者懇談会

日時 平成 31 年 1 月 25 日 10:00~11:15

場所 岩手県立県民生活センター

参加者 消費者 17 名 事業者 9 名

### 内容

#### 情報提供

・ NHK 盛岡放送局 技術部 副部長 高橋さん

スーパーハイビジョンの放送開始について、4k, 8k を視聴してほしい。またその視聴方法についての説明がありました。

・ 東北電力岩手支店 生活提案部長 田中さん

くらしのトータルサービスについての説明。電気だけでなく GPS を利用した子供の居場所確認サービス、健康相談ダイヤル、太陽光発電の余剰電力買取サービスや蓄電池提案サービスなどプラス・ワンの説明がありました。

#### 懇談

##### 事前質問への回答

・ エコセンターについて

家電のチラシにエコセンター付という表示があるがどのような機能なのか？ 家電の種類に関係なくついているものか

回答→メーカー独自に付けられるもので、例えば照明器具は明るさにより減光、エアコンは温度調節を行うなどの機能などで義務はない。

・ 米の銘柄に合わせて水加減する炊飯器、家電のお知らせブザーについてはメーカーによって、機種によって違うので一概に言えない。

・エアコンや洗濯機に防カビ機能をうたっているが信じてよいか？

回答→基準はない。各メーカーのテストによる表示。

・リサイクルについて

回答→リサイクル率は上がっている。TV 74% 冷蔵庫 70% 洗濯機 82% クーラー 80%

裏ルートでの回収は減っている。廃品回収車も見られなくなった。今問題は自然災害が多くその時廃棄処理ができないことである。

・家電の値引きにスマホを乗り換えれば商品の値段を半額にするという広告があるが、問題にならないか

回答→小売販売からすれば困った問題だが、大手メーカーがそれでも採算が採れることで実施していること。これは難しい問題です。

### その他質問

NHK 8k までする必要性は？

普通の番組では必要ないと思われるが、今後遠隔医療などでは画像が鮮明なので必要になると思われる。

### 感想

今回は事業者からの情報提供が2つと少なくて時間的には良かったが、事前質問への回答は全て業界基準はなくメーカー任せとのこと。防カビのエアコンや洗濯機なら私も買いたいと思ったが、どこまで信用できるのか、やはり基準は欲しいと思いました。

報告 広野 カツ子

## 岩手県生協連主催 協同組合公開講座

### 子どもの貧困と、協同組合

～盛岡市の実態調査を手がかりに、事業・運動でできることを考える～

日時 2019年1月31日（木） 10：30～12：30

場所 岩手県自治会館 第1会議室

講師 櫻 幸恵さん（岩手県立大社会福祉学部准教授）

内容

- ① 子どもの貧困の現状 ② 「子ども家庭福祉」とソーシャルワークの視点  
③ 私たちに何ができるか

平成28年4月盛岡市と県立大が共同で、ひとり親世帯の子どもの実態調をすることになり、2,857人にアンケートを出し、1,173人から回答があった。（有効回収率41.1%）

質問内容は、●母親の就労率、雇用形態、勤務時間 ●経済状況 ●子どもの生活 ●必要な支援やサービス●病院、受診をためらった経験  
●必要な食料を購入できなかつた経験等

結果から見えてきたこと

- 母親 就労率は91.6% そのうち土日勤務76.8% 早朝勤務27.9%でひとり親家庭の親が子どもと過ごす時間が制約されている。
- 子ども 子どもの32.4%が放課後一人で過ごしている。学習用スペースがない割合14.3% 経済的な理由で塾や習い事をしていない66.0%で経済状況が子どもの学習環境へも影響している可能性。
- 必要な支援やサービス お金や家計管理についての相談窓口、病気や不在時に子どもの面倒をみてくれる人、無料の学習支援、母親の仕事職業に関する資格取得支援、学校や家庭以外で子どもが遊べる場所、子どもの送迎をしてくれるサービスなどへの希望があった。

櫻さんがかかわったひとり親世帯の事例も聞くことができ、制度や相談窓口を知らないためにSOSが出せず悩んでおり、日本は老人の支援はたくさんあるが、子ども専門の拠点が少なく、岩手県でもスクールソーシャルワーカーが18人しかいないので、もっと増やすことが貧困の解決になり、日本は先進国なのに貧困率が高いとのことでした。

感想

最近子どもの貧困が社会的な問題になり、新聞やテレビで聞くようになりましたが、身近にいないのでわかりませんでした。途上国の問題だとばかり思っていたのが、盛岡でも子どもの7人に一人が貧困とは耳を疑いました。個人でもできる支援を知りたいと思いました。

松村ウメ子

## 子どもの貧困対策

### マッチング・フォーラム

日時 2019年2月12日（火）13：00～14：30

会場 岩手教育会館

主催 内閣府

全国各地でこのフォーラムをやっており、子どもの貧困に関する国民運動の取り組みについてのお話がなされました。

パネルディスカッションでは岩手県内で子ども食堂、居場所づくり、ひとり親支援などに取り組む団体や自治体、企業が活動を報告し、目的や効果、課題などを話されました。

#### 感想

貧困とはどれくらいの収入で生活することなのかと思っておりましたが、4人家族で月収20万円以下との内閣府の方の説明でしたが、都市部と地方によって違うのではと感じました。

私たちが子どものころは食べ物が少ない、着るものはお下がり、住むところは粗末な家というイメージでしたが、皆がそのような生活だったから貧困ではなく貧乏という言葉がぴったりでした。今はさっぱりした服装で、コンビニで買い物したり、給食を食べたり、ゲーム機は持っているし、子どもの貧困といわれてもどの子が貧困なのか見分けがつかないのが現状です。

1月31日の協同組合の公開講座は、協同組合として何ができるかという視点だったので、今回のフォーラムは個人や団体、地域社会の取り組みを紹介し、それぞれの立場からの報告があり、活動して良かった点とか支援しての悩みや問題点など詳しく話されて、ファシリテーターの方の進め方が上手だと思いました。個人でも支援できそうなヒントが見つかりました。

企業が子どもの貧困について社会貢献していることを知り、このような取り組みが各地で広まれば、子どもの貧困は良い方向に向かうのではと思いました。

日本政府の対策の充実強化に取り組んでいることも配布された資料にはありましたが、将来を担う子どものためにもっと税金を使ってほしいと思いました。

参加者を見ると関係者が多いように見受けられましたので、一般の人たちの参加が多い方が啓発になるのではと思いました。

松村 ウメ子

2日付本紙で「河川の割  
微小プラス検出」の見出しに、  
河川にまでマイクロプラス  
チック(MP)が出たのか  
と衝撃を受けた。

10月26日に岩手県消費署  
大会があり、私が所属して  
いる県生活問題研究会は第  
6分科会の環

境の部でMP問題を取り上げ  
ることにし  
て、ここ数年、MP問題は、  
テレビや新聞、雑誌で取り  
上げられ地球規模での問題  
となっていた。私も新聞や  
雑誌の切り抜き、テレビ番

## 日報論壇

### 川から防げプラスごみ流出

松村ウメ子

消費、廃棄によりごみ問題がクローズアップされることが、水ごみ問題を並行して啓発活動を継続してきた。ここ数年、MP問題は、

組のビデオが20件くらいにスタイルの見直しをせまりもなっている。当研究会は、発足から40年を過ぎて、合成洗剤の問題が多くなった時代は河川水を取水し、検査センターに依頼して問題点を探ってきた。また、大量生産とがなかつたが、15年くらい前に日本海地域を旅行したとき、宿泊したホテルの部屋のほか物干しがおまで

すると、不燃ごみや缶、ビニール袋、袋、トレー、ペットボトルなど、多くの容器包装が多いことに気がついた。また、河川敷の木々には、すでにその前からプラスごみ類がからまりボロボロになっていた。

この前から、MP問題は、分科会を担当するにあたって、河川敷でのプラスごみの状況を発表し、意見交換の中から「誰でもできる」とから始めよう」が問題解決のカギだと思った。

調査中に川に発泡スチロールの箱が流れているのを見え、全国の川からこの

2日付本紙で「河川の割  
微小プラス検出」の見出しに、  
河川にまでマイクロプラス  
チック(MP)が出たのか  
と衝撃を受けた。

組のビデオが20件くらいにスタイルの見直しをせまりもなっている。当研究会は、発足から40年を過ぎて、合成洗剤の問題が多くなった時代は河川水を取水し、検査センターに依頼して問題点を探ってきた。また、大量生産とがなかつたが、15年くらい前に日本海地域を旅行したとき、宿泊したホテルの部屋のほか物干しがおまで

すると、不燃ごみや缶、ビニール袋、袋、トレー、ペットボトルなど、多くの容器包装が多いことに気がついた。また、河川敷の木々には、すでにその前からプラスごみ類がからまりボロボロになっていた。

この前から、MP問題は、分科会を担当するにあたって、河川敷でのプラスごみの状況を発表し、意見交換の中から「誰でもできる」とから始めよう」が問題解決のカギだと思った。

調査中に川に発泡スチロールの箱が流れているのを見え、全国の川からこの

## 平成30年度活動報告（2018年度）

6月

- 6日（水）例会 共済会会議室  
27日（水）消団連幹事会・岩手県消費者大会実行委員会 岩手県公会堂会議室

7月

- 11日（水）例会 共済会会議室  
18日（水）マイクロプラスチック学習会 高校会館会議室  
20日（金）消費者大会実行委員会・消団連幹事会 県民生活センター  
31日（火）水の日行動 ナナック交叉点付近

8月

- 8日（水）例会 共済会会議室  
22日（水）消費者大会実行委員会・消団連幹事会 岩手県公会堂会議室

9月

- 5日（水）例会 共済会会議室  
26日（金）岩手県消費者大会実行委員会・消団連幹事会 県民生活センター

10月

- 10日（水）消費者大会実行委員会 県民生活センター  
17日（水）例会 共済会会議室  
26日（金）岩手県消費者大会 サンビル7階

11月

- 7日（水）例会 共済会会議室  
14日（水）岩手県消費者大会ふりかえり 利右エ門  
14日（水）食の安全安心を考える講座 岩手県総合福祉センター

12月

- 1日（土）荻原博子講演会 サンビル7階ホール  
12日（水）例会 共済会会議室  
14日（金）食の安全安心を考える講座 県民生活センター  
19日（水）消団連幹事会 岩手県公会堂会議室

## 1月

- 9日（水）例会＆新年会 ホテルメトロポリタンニューウイング「対い鶴」  
25日（金）岩手県電機商業組合との懇談会・消団連幹事会 県民生活センター  
31日（木）子供の貧困と協同組合～盛岡市の実態調査を手掛かりに、  
事業・運動できることを考える～  
講師；櫻 幸恵（岩手県立大学社会福祉学部准教授）  
場所；岩手県自治会館第1会議室

## 2月

- 2日（土）10月消費税10%ストップ！斎藤貴男講演会  
岩手県自治会館第2会議室  
9日（土）ハピネス共済会50周年式典・祝賀会 サンセール盛岡  
13日（水）例会 共済会会議室  
20日（水）消団連幹事会 県民生活センター

## 3月

- 6日（水）ゲノム編集学習会 岩手県水産会館5階  
10日（日）さよなら原発岩手県集会 岩手県民会館中ホール  
14日（木）例会 共済会会議室  
27日（水）消団連幹事会 県民生活センター

## 4月

- 10日（水）例会 共済会会議室 「水清き」校正作業

## 5月

- 15日（水）「水清き」製本作業

### ☆各種モニター等

・岩手県再生資源利用認定製品審査会委員 広野カツ子

\* \* \* \* \*

### ☆廃油石けん作り

松村 19、80

田上 6、60

\*\*\*\*\*

☆ 会員

- ・佐藤まゆみ
- ・広野カツ子
- ・松村ウメ子
- ・田上みね子
- ・横藤崇子
- ・川村正子
- ・高橋タミ子
- ・佐藤冊子
- ・桑畠トワ子
- ・長野慶子



## ✿研究会の思い出✿

※研究会の閉会にあたり、会員の皆様から思い出をお寄せいただきました。



熊谷佳枝さんを囲んで 2007.12.12



佐藤まゆみ会長 環境保全功労者表彰

くらしの問題取り上げて！

下上 マツ子

岩手県生活問題研究会が会員の減少、高齢化により、今年度で閉会すると聞き誠に残念くやしい限りです。

日頃の行政への働きかけにより、男女の平等や働き方、消費者問題について女性対象に懇談会が数回開催されました。個別の相談について、商工観光課一階に整備されました。

私達の岩手県生活問題研究会は県民共済会の付属機関として位置づけられ結成されました。もう 40 年前になりますか？結成時に参加していましたので感慨ひとしおです。

会として取り組んだのが水です。「命の水」水道水は市が管理していますが、市内流れる小川、湧水、自家水です。市内を巡回して取水をして、盛岡市水道部から検査液を頂き厳重に注意をしながら検査をしました。結果は表にまとめ、市の産業まつりに展示し発表しました。調査にかかわった地域の人達も関心を持ち、真剣に取り組んだことがなつかしく思い出されます。

今国会では水道の民営化が取り上げられて論じられている様ですが、心配です。東日本大震災は八年も過ぎました。今もなお自然災害・原発など大きな問題を残しています。

プリン石けん今も作っている！

千葉 節子

月一回の集まりを楽しみに、手足を使って調査し、考え、判断することを基本に活動したことが懐かしく胸が熱くなります。

「しっかりとした自分の物差を持つ事よ」のアドバイスは今も耳に残ります。会で学んだことを他の会で発表し、実行に移してもなかなか受け止めて貰えず、弱音を吐いたら「1%でも関心を持つ人が居たら、よしとしなくては。継続は力。」と亡き熊谷会長より励まされて前に進むことが出来ました。尊敬する熊谷会長との出会い、心許せる仲間との交流は生涯の宝となりました。

環境に優しい生き方をと、三十年以上プリン石けんを作り使用。CO<sub>2</sub>を少しでも削減出来たらと、車を持たない生活を選び現在に至りました。研究会は私にとって生きて行く上で大切なバックボーンだった！と心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 岩手県生活問題研究会の9年間

牧香久子

月例会初参加は平成5年5月、会長は熊谷佳枝さん。有機栽培米の学習視察、水調査、石けんづくり、その成果を発表展示する中津川河原での消費者まつり等々。会の活動は多岐にわたり、消費者としての意見や要望を求められる団体だった。盛岡市「おでって」や大型スーパー建設での大店法関連事前説明会と要望の提出。農水省のモニターも毎年会員が順番に引き受けていた。会の活動範囲の広さと会員それぞれの分野における経験や知識・こだわりの見聞から、学校給食排水調べや包装容器・ゴミアンケート他の調査とまとめ作業の際、多くの示唆をもらった。平成9年、会長佐藤まゆみさん副会長広野さんとなり、事務局を3年間担当。会報「えぶろん」と年間活動のまとめ「水清きふるさと」の編集発行に携わった。振り返ってみれば、私の人生を多方面に広げてくれた9年間だった。

感謝！



No.5 木賊川(取水)

河川の水質調査

## 廃油石けん

葛 和子

中津川河川敷で消費者まつりがあります。私達の研究会では、毎回廃油での石けん作りをして、来場者に手配りをしています。

若いお母さんが、一才くらいの男の子を背おって来ました。お母さんは「この子をみて下さい」と云って、顔や手を見せてくれました。皮膚はカサカサ、表皮には、うすく血もにじんでいるようで、とてもつらかったろうなと思うと可愛想でした。私達の石けんの話をして、使ってみて下さいと、プリン石けんと固型石けんを手渡し、連絡先を伝えました。

一年後の消費者まつりに、あの時のお母さんが男の子をつれて来て下さいました。そして「あの時の子です。おかげさまでとても良くなりました」とお礼を云われ、その子をみたとき本当に良かったと思いました。私達の小さな活動が小さい実をつけたのを感じた瞬間でした。



## 今も続くご縁

長野 慶子

我家のお米は岩手町一方井の今松さんに届けていただく玄米“あきたこまち”です。

このお米とのご縁は、平成四年に研究会が今松さんと特別栽培米提携をした時から始まりました。

会員手作りの袋に5kgずつ入れられて、毎月配達されました。現地見学会では、かるがもによる除草等を目にして、興奮したことを思い出します。しかし、翌年は天候不順で不作。配達は打ち切られました。会員の中にはお米屋さんとの取引実績がないためお米の入手に苦労し、購入方法を考え直した方也有ったと聞きました。平成六年から再開。

今では温度管理され、真夏でも美味しいお米が届きます。二十五年以上も続いている安全で美味しいお米とのご縁、これも研究会があったからこそと、日々感謝しながら戴いています。



盛岡市消費者まつり

研究会に参加して

細野 孝子

生活問題研究会に入会したのは、60才頃です。生協関連の友人にお誘いいただき例会に出席しました。

「食品添加物・環境・ごみ問題・物価調査」等さまざまな課題に取り組んでおられました。

例会に数ヶ月出席しましたが、私としては“場違い”的所へ入会したのではと不安になったものです。なぜなら、課題にそっての話し合い、討議の内容がすごく高度（濃い）に思いました。とても活発でした。

ある例会の日、「合成洗剤の濃度別」に器に入れメダカを放す実験、元気で今泳いでいたメダカが数秒で泳がなくなった姿にショックを受けました。合成洗剤の普及による水質汚染が問題になっていた事を目の当たりにしたからです。

例会で話を聞いているうちに、私もチョット話の中に入れるようになりました。

又、食廃油を利用し「リサイクル石けん」を作り、八月一日「水の日」に手作り石けんを、盛岡の中心街において石けんの配布、“川の水をきれいに”と呼びかけて手渡すという活動にも参加しました。受け取った方は「手作り」と聞き、自分も作ってみたいとの声もありました。

私の友人にも配りました。“ドロンコ汚れの靴下”がきれいに汚れがとれたとびつ

くりし、喜んでくれたのです。この時、研究会に入って良かったと思いました。

又、活動の一環として「みどりのフェスティバル」に展示品として、大きな笹竹に暮らしを守るためのメッセージ、環境、食品添加物、物価等を書きしるし、吊るし、アピールしました。短冊をみて声を出し読んでいく方もあり、多くの方に关心をもつていただいたと思いました。

研究会では微力ながらさまざまな活動に参加し、知識を吸収する事が出来ました。認識を新たにし、今後の暮らしを守るために生活していきたいと思います。

最後に、研究会に心から感謝申し上げます。



2008年環境王国展

## 熊谷さんとの出会い

私が消費者センターに勤めていたころ、品の良い素敵な女性が時々顔を見せていた。同僚に「誰」ときくと「熊谷さんよ」と教わった。私はその後体調を崩し退職し、信用生協にパートに来たら熊谷さんがいらした。そこでお会いし色々と話し研究会に誘われ入会した。その当時消費者問題は多々あり、その中でも合成洗剤や食品添加物など身近な問題に取り組み一緒に活動した。月一度の例会では、会員が激論することもあったが上手に話をまとめて「それでは又来月会いましょう」と絶対に声を荒げることは無かった。熊谷さんとは20年位一緒に活動をしたが、いつも笑顔で偉ぶることもなく素晴らしいお人柄に感銘を受けた。会員の皆様も熊谷さんを慕いここまで活動が出来たと思う。

まさに[think Guroubary act Roukaryi]の方でした。この会は閉会しますが今まで学んだことを活かし、これからも外に目を向けながら暮らすよう心掛けていきたいと思います。

広野 カツ子



熊谷さんの好きだった花

百合の花

## NHK仙台放送局の報道番組に出演

研究会の会員となって25年位になりました。

押し入れを片付けていると「NHKこんぱす」と赤いペンで大きく書かれた封筒が目に入りました。

それは、2007年11月16日に「こんぱす東北の課題、家庭ごみをどう減らす?」というNHK仙台放送局が東北6県に放送するという報道番組で、出演した時の資料や名刺が入っておりました。

私はその当時研究会の事務局を担当しており、活動でもごみ問題を取り上げ、個人的にも盛岡市のごみ減量委員や廃棄物対策委員をやっておりました。

番組の内容は、東北が抱える様々な課題に対して毎回スタジオにゲストを招いて議論をしてもらい、視聴者の意見も紹介していく生放送の討論番組でした。家庭ごみの有料化、賛成?反対?有料化でごみは減るのか?紙類やプラスチックとして処分?資源としてリサイクル?などでそれぞれの立場から意見を言う、ということでした。

出演者は有料化賛成派の仙台市の副市長(その当時)の奥山恵美子さん、東洋大学の山谷修作さん、反対派は立正大学の田口正巳さん、消費者代表として研究会から私が出演ということでした。

出演を引き受けたものの、参加者の方々はその道の第一人者であり一主婦が討論に参加できるものかと不安になってきました。

生放送とのことで、10日くらい前になると資料が送られてきたり、ファックスが毎日大量に届くようになり、夜になると打ち合わせの電話が一時間近くにもなり、担当のアナウンサーやディレクターが打ち合わせに来たり、その上私の会話を録音させてくださいと言われ、えーそんなにまでもするんだろうか、公共放送だからごみ問題についてテストされたのかな?と思い、だんだん疲れてきて引き受けたことを後悔しました。

番組当日は夜7時30分から8時45分まで、4時半までに来てくださいとのことで、始まる前にメイクをしてくれました。生放送中は早く終わらないかなーと思い時間が長く感じられました。

番組は順調に進み、終わった時どつと疲れてすぐ新幹線で帰りました。帰宅してからビデオを見てみると、あんなに準備したのに実際に発言したのはこんなものだったかと、テレビ番組を作る裏側の大変さを知りました。

テレビをみた友人は、NHKの受信料払っているかチェックされたんだよと言つて笑いました。今考えると研究会の会員でなければできない体験をさせていただきました。

松村 ウメ子

## 岩手県生活問題研究会で学んだ日々

田上 みね子

生活問題研究会、とてもいかめしい名称で私なんかが行って大丈夫かな～と感じながら入会しました。

生協活動を何年か続けていろんな会議にも参加していましたが、それとも違う会の雰囲気でした。主婦業の私は社会の動きに関してテレビや新聞の見出し程度の認識しかありませんでしたので、例会での話し合い、活動はとても新鮮で何も考えないで生きてきたことを反省することも多々ありました。

石けんの良さを伝えたり、ごみ問題を考えみんなで啓発活動をしたり、行動すること、学習会に参加することも今考えるととても刺激になりました。

原発事故以来、環境問題を語ることに虚しさを感じていましたが、ここ数年マイクロプラスチック問題がとりあげられ、この会でも昨年から学習しておりましたので最後に消費者大会の分科会で発表することが出来たのはうれしいことでした。

諸先輩が作り上げてきたこの会の最後のメンバーになってしましましたが、とても有意義な会に参加できたことを感謝しています。

本当にそうなのか？

横藤 崇子

研究会には13年近くお世話になりました。入会時は、一家言ある先輩方が沢山いらっしゃり、皆さんの一言一言に「ふうん。そうなんだ。すごいな。」と唸っていました。当時40代の私は、ニュースを見ても本を読んでも疑うことを知らずに鶴呑みにするばかりでした。

また、ママ友たちは時事ネタを話すことが無かったので、環境や食など身近な問題を遠慮なく話せる場ができたことは喜びでした。

知識やイベントのやり方も習いましたが、それ以上に、世間で言われていることや報道されていることは本当にそうなのか、同じ一つの出来事であっても立場が違えば考え方も違うし、正しいことは一つではないという、物ごとについての考え方を学ばせていただいたことが大きかったです。

今後このような素晴らしいお仲間に出会えるのは難しいと思いますが、勉強を続けてアンテナを張っていれば次なる場にぶつかるかもねと期待を抱いています。

## 研究会と私

川村 正子

生活問題研究会を解散するというお話が出たとき、自分は所属して何年になるのだろうと思い「水清きふるさと」をめくってみると 2008 年から参加させていただいっていました。ハピネス共済会も 50 周年ということですが私も 10 周年節目の年だなど感慨深いものがありました。

思えば研究会での活動は私の子育てに深く影響を与えてくれました。研究会の活動を通して学び得た多くの経験や知識、様々な人との出会い、またその方々から見聞きした知恵や工夫や情報、そのすべてのおかげで私も親として女性としてわずかながら成長できたと思います。時折、諸先輩方の活動してきたことに触れる機会があり、そのたびに自分は諸先輩方が大きく膨らませてくださった研究会にちょこんとのっかってのびのび活動させていただいたなと思うことばかりでした。

歴代の先輩方をはじめ所属してから最後まで共に活動してきた仲間、支えてくださった共済会、全ての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。研究会での活動経験を今後の人生でも生かしていきます。

「生活問題研究会」に感謝

桑畠 トワ子

恥ずかしながら、消費者団体という言葉すら意識することなく生活していた私。田上さんに声をかけて頂いて、何をしている会なのかも分からずに「生活問題研究会」に参加させて頂きました。月一回の例会は年齢や生活歴の異なる方々のお話を聞くことができて世情や暮らしの中での身近な問題等の勉強になり、楽しい時間もありました。環境汚染の水やゴミ問題、安心安全の食品問題、生産者と消費者、そして善良な市民を騙すおれおれ詐欺等々本当に沢山の内容を学習する事が出来ました。この会に関わらなかったら日々と暮らすだけで、これ程に環境や食品、消費者に関わる問題に关心を持つ事は無かったでしょう。自分からアンテナを立て様々なものを意識していくべき事を学びました。この会があって皆さんと繋がる事が出来て、意義のある時間であり談話や食事会は幸せなひと時でもありました。

皆様、本当にありがとうございました。

岩手県生活問題研究会

高橋タミ子

定年を迎える「何かやりたいことはないか」と考えていた時に、友人が誘ってくれたのが研究会でした。この会は、水問題・環境問題について皆で考えてみようという主旨でした。参加した当初は、わからないこともありましたが、話を聞き活動しているうちに少しずつ理解できるようになりました。

私のふる里、秋田県三郷町は六郷湧水群の水場が66カ所ほどもあるところです。水は自然にあり美味しいものとおもい育ってきました。

現在は水の汚染問題やマイクロプラスチック問題など環境問題が取りざたされています。研究会では「水を大事に！」というチラシを配布、環境にやさしい石けんづくりと配布、中津川のごみ調査などの活動と共に専門家の講演会なども開催してきました。私自身、研究会での勉強で、水に対する知識を深めることができました。研究会の啓発活動は重要な役目を担ったものと思います。

ふる里の美味しい水がいつまでも美味しいままであるようにと、これからも皆さんに伝えていけたらと思っています。

7年間の活動で水に対する知識を深めることができたことは、研究会の皆さまの指導の賜物と感謝しています。

ありがとうございました。

## 生活問題研究会に参加して

佐藤 冊子

退職したことをきっかけに誘っていただき参加することになりました。会の内容など全く知らずに参加し、初めは驚きました。

今まででは政治とか、経済とかにあまり関心をもつことがなく、それでも仕事ができる環境にいました。

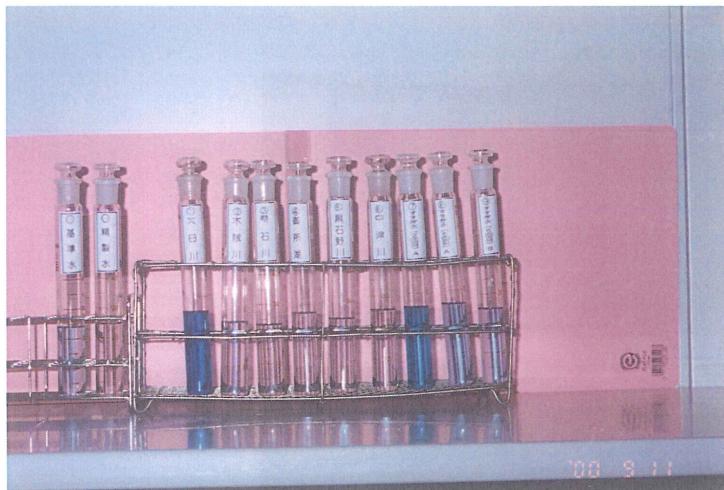
洗剤の事は、就職した時組合活動で少しだけ知っていましたが、消費者問題などは全く考えずにきたと思います。そのような中で、被災地への訪問、リサイクル施設の訪問、消費者問題、そして例会での報告と話し合いは、とても楽しく「井の中の蛙」だった私の目を新しい世界に向けてくれたと感じます。

学ぶ機会が無くなるのが残念ですが、教えていただいたことを大切に、まわりに目を向けていきたいと思います。



小岩井農場バイオマス見学

## 調査・研究活動



河川の水質調査



ごみ処理場の見学



食品に含まれる着色料で  
毛糸を染める

## 活動の記録

\*盛岡市消費者まつり

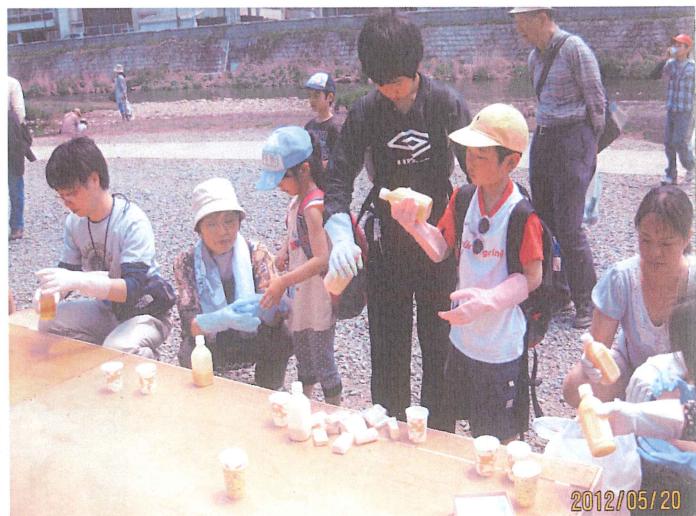


## 活動の記録

\*緑のフェスティバル



中津川原



\*8月1日水の日行動



ペットボトル石けん



環境カルタ



「水清きふるさと」平成 15 年～29 年





2007 6 16